



令和 2年 7月 3日

中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所

梅雨前線降雨における小渋ダムの運用状況について

1. 概 要

梅雨前線と低気圧の影響による出水において、小渋ダムが防災操作を行いましたので、その状況についてお知らせいたします。

梅雨前線と低気圧の影響により、九州から北海道の広範囲に非常に激しい降雨をもたらし、長野県南部では各地で大雨となりました。

- 小渋ダムでは、流域平均累計雨量は約224mm、最大流入量は約640m³/sを記録しましたが、防災操作（洪水貯留）により、約679万m³の洪水を貯留しました。
- 今回の出水では、小渋ダム管理開始以降（51年間）で2番目となる流入量約640m³/sを記録しました。

防災操作の詳細については、別紙の通りです。

配 布 先

飯田市記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、伊那記者クラブ

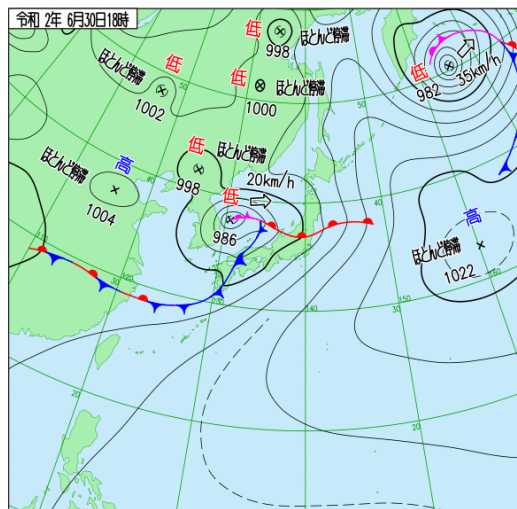
問 い 合 わ せ 先

天竜川ダム統合管理事務所 管理課長 岡本 TEL：0265-88-3729

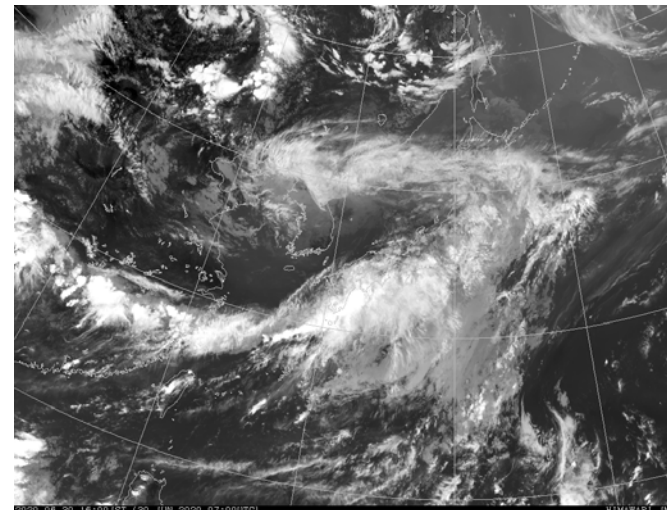
小渋ダム 防災操作の効果【速報版(R2.7.3)】

- 梅雨前線と低気圧の影響により、九州から北海道の広範囲に非常に激しい降雨をもたらし、長野県南部では各地で大雨となりました
- 小渋ダムでは、流域平均累計雨量は約224mmを記録し、最大流入量は約640m³/sを記録しましたが、防災操作（洪水貯留）により、約679万m³の洪水を貯留しました

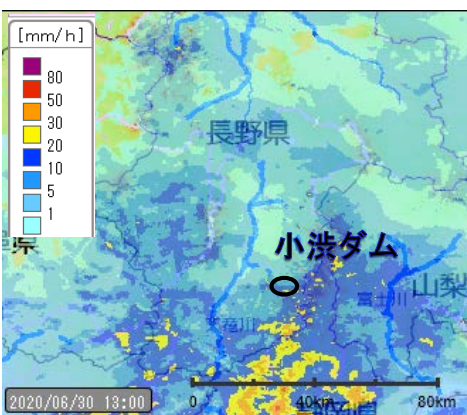
※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正また追加をすることがあります



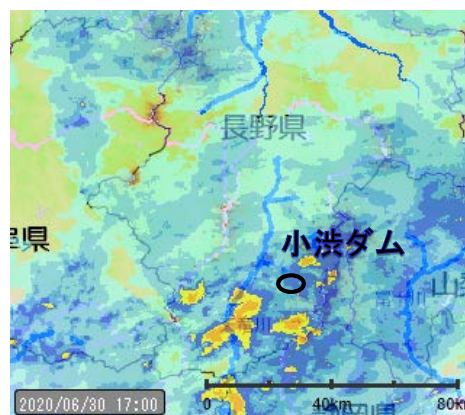
天気図(6月30日18時00分)



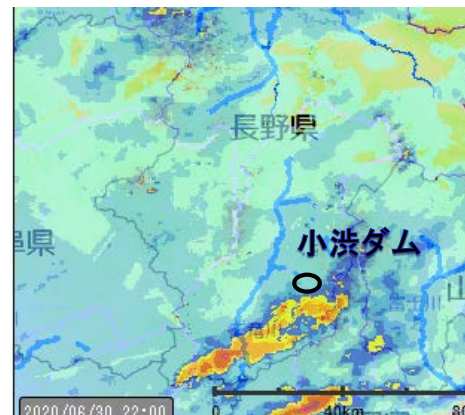
気象衛星(6月30日18時00分)



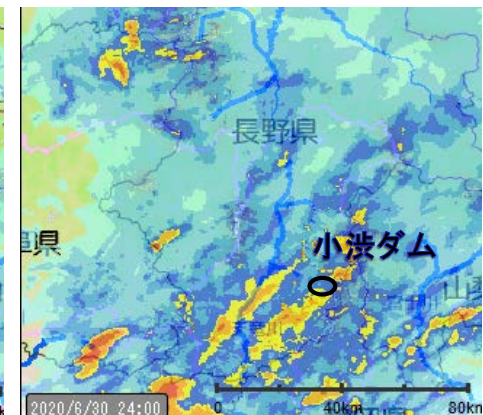
レーダ雨量(6月30日13:00)



レーダ雨量(6月30日17:00)



レーダ雨量(6月30日22:00)



レーダ雨量(6月30日24:00)

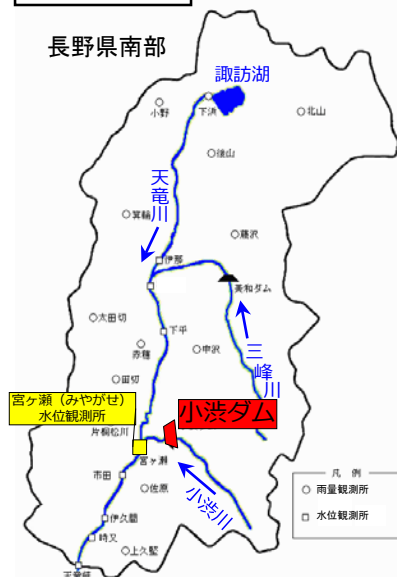
小渋ダム【防災操作による水位低減効果】

- 梅雨前線の影響により、6月30日の降り始めからの降水量（7月1日15時時点）は、小渋ダム流域平均で約224mmを記録しました。
- 小渋ダム管理開始以降（51年間）で**2番目の流入量**約640m³/sを記録しました。
- 小渋ダムでの防災操作の実施により、約679万m³の水を貯留し、ダム操作がなかった場合と比較して、ダム下流の宮ヶ瀬（みやがせ）地点の水位は、約42cm低下したものと推定されます。

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正または追加をすることがあります

位置図

長野県南部



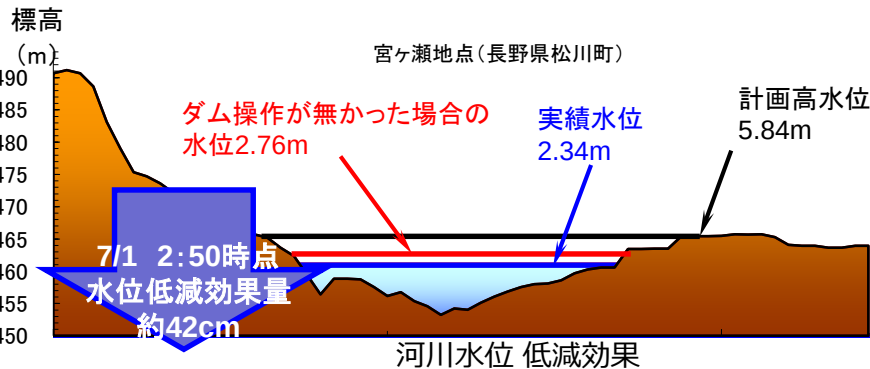
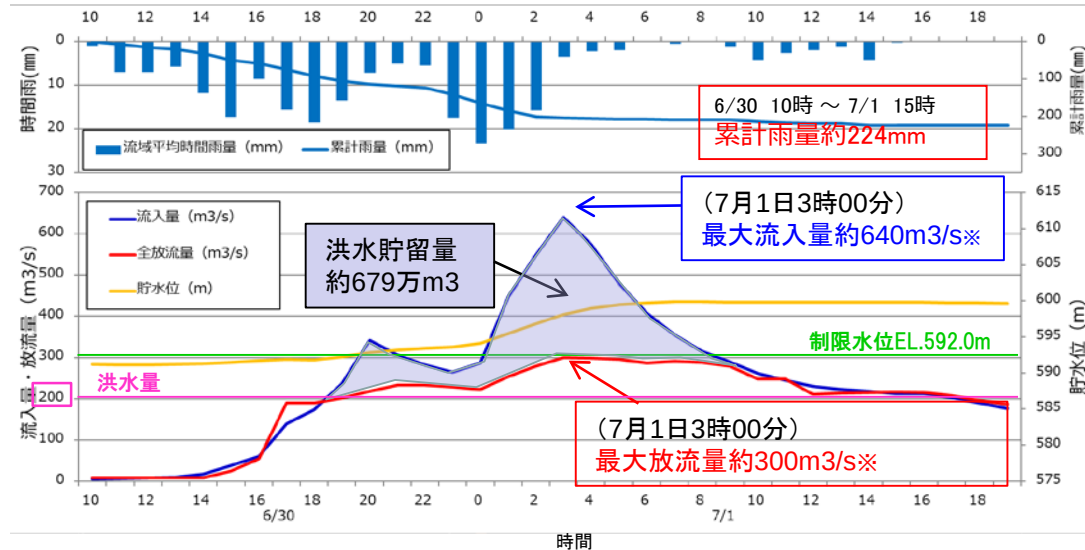
【小渋ダム概要】

河川名：天竜川水系小渋川
所在地：長野県中川村、松川町

目的：洪水調節、発電
特定かんがい
堤高：105.0m
（ダム天端標高EL.620.0m）
堤頂長：293.3m
流域面積：288.0km²
総貯水容量：5,800万m³
洪水調節容量：3,390万m³
（梅雨期）
管理開始：S44年7月～

小渋ダムの防災操作の状況

※最大流入量・
最大放流量は瞬時値



小渋ダム放流状況 (7/1 5時)



小渋ダム土砂BP放流状況 (6/30 19時)

小渋ダム【土砂バイパストンネルの整備効果】

- 梅雨前線に伴う大雨による出水において、土砂バイパス施設※を6/30 15:40から運用を開始し、現在も稼働中
- 小渋ダム貯水池への土砂流入を、**ダンプトラック約10万3千台分**（約 51万7千 m^3 ）**抑制**することができたと推定されます（6/30 15:40～7/1 15:00までの約24時間での排砂量）

※土砂バイパス施設とは・・・

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正または追加をすることがあります

- 土砂を多く含む流水を、貯水池上流からダム下流へバイパスし、貯水池への土砂流入、貯水池での土砂堆積を抑制するとともに、土砂移動の連続性を確保するための施設
- 粗い土砂を堰き止める第3貯砂堰・分派堰と、小渋ダム貯水池を迂回して土砂を下流に流す土砂バイパストンネルなどで構成されています

土砂バイパストンネル概要図



土砂バイパストンネル呑口上流 第3貯砂堰
（7月1日 4時20分頃）



土砂バイパストンネル呑口
（7月1日 11時頃）



土砂バイパストンネル吐口（7月1日 11時頃）
土砂バイパス放流量 約170 m^3/s

今回の出水時の
土砂バイパス施設を用いた
通過土砂量
約51.7万 m^3
（運用開始から24時間にて）